

炊き出しボランティア通信 vol 5 7

2012, 1月

炊きだし 2月11日(土) 9:00元寺小路教会に集合・準備。12:00炊き出し

一緒に参加しながら生徒取材もする顧問は今回風邪でダウンでした。そこでWさんをお願いしておいて、二人だけで行かせましたが、他にちょうど二人きていたS学園の生徒と協力して仕事を行ったそうです。

3年生は3月1日卒業式で、引退です。3年生が3年間活動してきたことを振り返ってみた文章が「よき家庭」というカトリック教会の全国誌に掲載されました。紹介します。

「ボランティア活動で得たこと」

私がボランティア同好会に入部した理由は、ボランティアをしたいからではなかった。友人に誘われたことがきっかけで、私自身はボランティアに興味はなかった。

三年間のボランティアでは、初めて参加をしたホームレスの方への炊き出しが一番印象に残っている。私はホームレスの方に汚い、怖いと近寄りづらい偏見を持っていた。そして、ボランティアという初めての体験に何をしたらよいのかわからなく、戸惑うことが多かった。しかし、回を重ねるごとに他のボランティアの方々、ホームレスの方々と接していく中で、前まで持っていた偏見もなくなりだんだん仕事も出来るようになった。そして、ボランティアをする上で自分から仕事を聞き、積極的に仕事することは、社会に出る私にとって、大切なことだと実感した。

昨年の夏に仙台で行われた障害者共同連大会のボランティアでは、手伝いの人にも幅広い年代の方がいて、とても良い出会いと発見があった。来賓の方の案内をする仕事をし、私がお連れした方に「ありがとう。」と言われた一言でとても嬉しくなった。参加者にも障害をもっている方が多数いた。そして、障害をもつ人への接し方の難しさ、これからどう接していけば良いのかを考えさせられた。

三月十一日の地震を体験し、被災地として傷が癒えない中、私たちは復興のため役立ちたいと募金活動を行った。小さい子供からお年寄りまで様々な思いがあり、一円でも五円でも募金をしていただき、人の温かさ、そしてこの未曾有の大地震について、一人一人特別な思いで寄付していただいたのだと感じた。募金活動をする側、寄付する側が一日でも早く復興してほしいという思いが一致する募金活動だった。この震災の悲惨さとこれからかかる大きな復興作業を改めて実感し、心が痛んだ。

復興はまだまだ大変で、辛いことの方が多い。今自分にできることはなにかをボランティア活動を通して学ぶこと、考え実行することのできた三年間だった。(3年)

生徒の3年間での成長に感心し感激しながら、それを理解し支えてくれた保護者の皆様に感謝いたします。この活動を始めて、続けて来れたことに重い責任と深い手応えを感じております。くり返し、ありがとうございます。



○今回初めて炊き出しボランティアに参加してみて、不安だったけど、教会の人たちやまわりの人たちと協力しておにぎりなどを作ることができました。ホームレスの方にもよろこんでもらえたのでよかったです。(1年)



○炊き出しの準備を手伝ってくれたホームレスの人たちがいて、とてもうれしかった。とても大変だったが、いい経験になったし、楽しかった。今度の時は暖かい服装で行くことを忘れないようにしたい。(1年)



頑張った人は、こんな顔～。

献品 今月も小学校からたくさんの献品を預かりました。ありがとうございました。

夜回り 2月8日(水) 20:15～21:00

Sさんという男性と一緒に。この方とは3回目ぐらいか。薬剤師。20年勤めた薬局を辞めた。夜回りでは、野宿の方との出会いもあるが、それぞれ一風変わった人生を背負ったボランティアとの出会いもある。彼は勤務していた医局の不正(違法)に我慢できなかったと言う。一人暮らし。「お仕事は?生活は?」「そろそろ探さないと、とは思うんですが。貯金切り崩して暮らしています。」

国際センター。表ベンチの方にみそスープを作ってさし上げた。大橋下のKさんは元気な笑顔だった。ヨロシイ。西公園を過ぎた。Sさんはわざとだったか?追いつめられたか?

文責 高橋 寛

2012/02/26 (Sun) 09:29